

活動名	団体名	特定非営利活動法人 自然体験活動推進センター
廿日市市長期宿泊自然体験活動推進プロジェクト	地域	広島県広島市
	代表者	理事長 林 健児郎
	支援金額	25 万円
活動概要	<p>①廿日市市長期宿泊自然体験活動推進ミーティング 小学校で長期宿泊自然体験活動を実施するために必要な議論、協働、体験学習とは？について、先進地である京都市と体験活動の専門家を招いて講演会を開催した。</p> <p>②長期宿泊自然体験活動モデル事業 小学生を対象に長期宿泊自然体験活動を企画実施した。企画のねらいと活動の実際、モデル化に向けて参加者や指導者の感想、施設運営上の問題点などを明らかにした。</p> <p>③「長期宿泊自然体験活動カリキュラム開発」 施設職員、自然体験活動指導者で、カリキュラムに連動した自然体験活動の開発に向けて議論を行った。</p> <p>④「長期宿泊自然体験活動の手引き」作成 ①②③をふまえて手引きを作成した。</p> <p>◆実施時期 ①2012年6月24日(日) 県立もみのき森林公園 ②2012年8月17日(金)～21日(火) 県立もみのき森林公園 ③2012年9月下旬～ はつかいち自然体験型観光推進実行委員会事務局 ④2013年1月中旬～ はつかいち自然体験型観光推進実行委員会事務局</p> <p>◆参加人数 ①23名、②75名(5日間のべ)、③23名(全6回のべ)、④12名 参加総人員:133名</p>	



先進地事例・協働・体験学習とは？について
みんなで学びました



ミーティングを終えて、講師と参加者のみなさん



県立もみのき森林公園にて



魚のつかみ取りと調理も体験しました

◆実施に伴う効果

- ①「廿日市市長期宿泊自然体験活動推進ミーティング」には、教育委員会、観光課等の行政職員、小学校教員、大学教員、自然体験施設職員、地域の自然体験活動指導者、キャンプ協会の指導者、県外の自然活動団体など、様々な所属や立場の方が参加した。2008年ごろから文部科学省や農林水産省、国は長期の宿泊体験活動の奨励を行っているが、地方ではこうした動きに対する情報が乏しく、また、関連するミーティングや勉強会は関東や関西等の都心で行われることが多い状況であった。こうした中で、広島県で先進地の施設職員や行政職員、また全国的に著名な体験活動の講師を招へいすることができ、指導者、施設、行政それぞれに、実施に向けた大きな刺激を与えることができた。参加者間のネットワークができたことも、大きな効果である。
- ②「長期宿泊自然体験活動モデル事業 ときどきサマーキャンプ 4泊5日 ワイルド&チャレンジ!」では、廿日市市吉和地域の自然を活かした特色ある自然体験活動を、地域の指導者、施設職員、施設、民間団体が協働で実施することでできた。それぞれの持つ特徴や良さを生かしながら、当該地域での長期宿泊自然体験活動をどのように企画し実施していくのか、だれが音頭をとるのか等、実施するプロセスで相互に良い影響を与えた。また、地域の指導者や施設にとっても、今後の実施に向けた事例として大変感謝された。
- ③「長期宿泊自然体験活動カリキュラム開発」では、カリキュラム開発を現場(小学校)の教員と一緒に目指そうとしたが困難であった。しかし、②のモデル事業を実施したメンバーで、体験活動が学びとして学校で実施されるようにするためにはどのようにしたら良いか、地域や指導者、施設の立場から②のモデル事業実施の経験を通じて得た事をふまえながら議論することができた。それぞれの団体や施設での、自然体験活動の取り組みが活発になった。
- ④「長期宿泊自然体験活動の手引き」作成は、時間もかかり苦労したが、今後の実施に向けて、地域、施設、地域指導者、学校等に向けたマニュアル的なものが完成し、今後の手引きが活用されることが期待される。

◆苦労した点

支援額が計画の半分となったことで、予算面でのやりくりで苦労した。計画が年間に渡って①～④の4部で構成していたため、予算の使い方や活動の実施の仕方について、調整が必要となった。①では講師として3名をお呼びすることになり、多くの方にボランティアで運営をお手伝いいただいた。②では、独自の事業での実施ではなく、施設の事業に協力をお願いして実施させていただいた。③④については支出をなるべく抑えるようにした。広報やPRは、近隣の小学校にDMを送ったり、教育委員会に依頼をしたなど行った。しかし、小学校の行事と重なったり、教員の休日の扱いなどの問題があるようで、学校関係者の参加を得るのに苦労した。また、指導者や施設関係者、大学などの教員の参加者もあったが、最終的により多くの人に参加いただけるよう、開催前日まで電話でお願いするなど大変であった。全般的に苦労した点が多かったように思います。

◆今後の課題・発展の方向性

今回のプロジェクトでは、地域の施設、指導者、関係団体等と連携ができた。しかし、同じように学校との関わりや関係をどのように作っていくかが課題である。教員は毎日の業務で多忙であり、また、教育委員会、学校、学年等の方針がある中で、一教員としての思いだけでは、長期宿泊自然体験活動や実施に向けた関係者、施設との連携は実施が難しい。このような現状が確認できたことは成果の一つではあるが、今後解決しなければならない課題である。子ども達にとって、自然の中で体験活動を実施することは重要である。一方で、学校教育の中だけで実施は困難であり、地域や施設、民間団体などの自然体験活動に関わる様々な人と結びつき、協働していくことが大切である。しかし、結びつけるのは容易ではない。誰かがつなぎ役となって、コーディネートしていくことが重要である。よって、今後は、当法人のような非営利の民間団体等がコーディネート役として、教育委員会や学校と施設、地域指導者、関連団体、とを結びつけて、長期宿泊自然体験活動を推進していくことが、発展のカギであり、どのようにコーディネートするかを探っていくことが、方向性であると言える。具体的には、今回実施した内容のように、先進地での事例紹介、協働していくことの重要性と具体的な協働の方法、協働の事例紹介を、教育委員会や学校などに対して継続して行いながら、モデル事業を参考にした事業計画の作成を一緒に行っていくことが有効ではないだろうか。

◆活動を終えての感想・意見等

プロジェクト実施にあたり、ご支援頂きました公益財団法人マツダ財団様に、改めてお礼申し上げます。市民活動は、活動の構想や実施に向けた思いがあっても、具体的な支援がないとなかなか実施できない場合が多いです。支援対象に選んでいただいたことで、大変力をいただきました。また、廿日市市、廿日市市教育委員会、はつかいち自然体験型観光推進実行委員会、県立もみのき森林公園、はつかいちキャンプ協会、よしわ自然体験活動指導者の会、その他ボランティアで運営を活動をお手伝いいただいたみなさま、京都や東京からご参加いただいた講師の皆様、その他関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。年間を通じて4つの活動を実施した中で、課題も見つかりました。うまくいかなかったこともあります。成果とともに反省点や課題を活かして、今後も活動の推進を実施していきます。今後も、みなさまと一緒に活動させていただきたく、またご協力をよろしく願いいたします。プロジェクト主催者として、今後も継続して取り組んでいきます。ありがとうございました。